

〔翻 訳〕

## 『スペクテイター』 (59)

—第560号から第569号—

門 田 俊 夫

第560号 1714年6月28日（月曜日）

【バジェル】

やっと長いあいだ中断していた言葉を話すようになった。

（オウイディウス）<sup>1)</sup>

世評によれば、啞者を押し通している有名な魔術師のことは誰もが耳にしたことがあります。そのため、この魔術師は託宣をすべて文書にして伝えるとのこと<sup>2)</sup>。ともかく、口の利けないこの名高い魔術師は、ギリシアの有名な盲目のトレイシアス<sup>3)</sup>のように、数年前からロンドンおよびウェストミンスター両市において活躍しているわけです。私のことを称えてくださる造詣の深い紳士からつぎの手紙が届けられました。

書齋にて、1714年6月24日

拝啓

貴殿が最近発声なさっておられるとお聞きしましたので、貴殿に倣って、当然のことながら小生も占い師になれるのではと考えました。無口でいることに辟易してきたのです。長年にわたって口の利けない医者として働いて来ましたが、これからは口頭で予言し、（リー氏をご承知のように古代の偉大な予言者であるカササギについて述べられているように）未来のことをペチャクチャ喋りたいと思います<sup>4)</sup>。小生はこれまで論争の単調さやわずらわしさを避けるために、質疑応答は文書で行って来ましたが、質問者たちは概ねお金のことは意識しない人たちなのです。要するに、患者は控え目なサルのようなものでした。インディアンに言わせると、サルはその気になれば喋れるが余計なことを引き起こさないために故意に口を開かないのです。小生はこれまで黙りを決め込んで生計を立てて来ましたが、これからは口を開いてやって行きたいと思います。最初の応答で若干言葉に窮していると見えても、それは洞察力が不足していたためではなく、長年喋らなかつたためだと

1) オウイディウス『変身物語』1.746

2) ダンカン・キャンベルについては、第31号参照。

3) テレイシアスは、オイディプスに父を殺して母を妻とした、と告げたテーベの盲目の予言者。

4) ドライデンとリーの『オイディプス』第4幕。

考えて欲しいものです。これによって、確実に以前の顧客が全員帰って来てくれるものと思います。彼らに恋人とか夫、富とか幸運を請け合うときには、文書にして渡したものを口頭で伝える積りですから。貴殿に拙宅を訪れていただけると、お礼の印として小生の初めて口開きの言葉を贈らせていただきます。貴殿のお気に召せば、口の利けない二人の会話をお楽しみいただけます。長い間、沈黙を守っていた崇拜者より。

敬具

コルネリウス・アグリッパ<sup>5)</sup>

小生意気なお転婆さんからつぎの手紙というよりむしろ恋文が届いています。彼女は満足の意を表明しています。

1714年6月23日

親愛なるにわかお喋り屋さんへ

わたしは自称「噂話クラブ」の一員です。そして、クラブの会員一同から貴方に口開きの祝辞をお伝えするように仰せつかりました。私たち全員は貴方のお話を是が非でもお聞きしたいと思っています。一晩ご一緒いただけましたら、10分間のうち1分間は貴方にお話しいただき、私たちは口を挟まないことで意見が一致しています。

草々

エス・ティー

追伸：場所はベティー・クラック夫人宅です。クラック夫人は、お顔の短い初老の殿方がお見えになられたら、すぐに入っていただくようにとの指示を門番に出しておられます。

本日の特別な紙面は全面的に寄稿者からの手紙で構成する積りですので、残りも同種のお祝いの手紙で埋めたいと思います。

1714年6月25日、オックスフォードにて

前略

我々は当地にて貴殿の口開きをとても嬉しく思い、ことあるたびに貴殿のお考えを賞賛いたしております。とりわけ貴殿が党派性について沈黙を維持なさる決意があることを承知していますので。貴殿がサー・ヒューディブラスのような素晴らしい弁士であることは疑いがありません。サミュエル・バトラーは、ヒューディブラスについて「彼は口を開くことは出来なかったが、そこには比喩的言辞が飛び交った」<sup>6)</sup>と述べています。筋肉に惨憺たる影響を与えたくましく表現された美文を半ダースお送りいただければ、それを大学の古文書にあるキケロの弁論の草稿のそばに保管させていただきます。なぜなら、貴殿が口を

5) コルネリウス・アグリッパ (1486-1535) はドイツの哲学者・錬金術学者で、『秘密哲学』(1570)、『学問の不確実と空虚』(1527-28)などを著した。

6) サミュエル・バトラー『ヒューディブラス』1.1.81-82

開いたということは、クロイソスの息子の身に降りかかった出来事<sup>7)</sup>以来、いやそれどころか、バラムのロバ<sup>8)</sup>の出来事よりも注目すべき歴史に記録されるにふさわしい出来事だと考えるからです。我々は貴殿の著作をもっと拝見したいと思っています。そして、かつてベーコン修道士<sup>9)</sup>が当地に建てた喋る頭像を目にした人たちのように、どんな言葉が出て来るか注意深く見守りたいと考えています。

草々

ビー・アール、ティー・ディー

6月24日、ミドル・テンブルにて

観察者殿

貴方が喋り始められたことをお聞きしてとても嬉しく思います。そして、昨日の幻によって、貴方の口が滑らかになり、睡眠中もお喋りを控えることが出来ないことを知り、喜びが倍増しています。貴方はつぎの紙面でということですが、もし貴方が流行の言い回しを用いる意図がないとしますと、とても風変わりになると思われまので、ほかの人たちと同様の喋り方を身につけて欲しいものです。貴方はバンタムの人<sup>10)</sup>として認められたいのですか、それとも、私たちをクエーカー教徒にしたいのですか。親愛なる観察者殿、小生は本当のことしか言えません。

草々

フランク・タウンリー

第561号 1714年6月30日(水曜日)

【アディソン】

すでに長い間ときめきを忘れた心と恋を打ち捨てた胸を  
澁刺とした愛情で満たそうとする。(ウェルギリウス)<sup>1)</sup>

前略

私は背が高く、肩幅が広く、浅黒い肌をした女性です。その意味ではあらゆる点において、裕福な未亡人としての資格が備わっているものと考えます。ところで、この3年間にわたって運試しをして来ましたが、ただの一人の残存種も手に入れることが出来ていません。最初の仕掛けは概ねうまく行きましたが、身を固めるということになるといつも壊れるのでした。このように運試しはうまく行きませんでした。体験を積み、一般に未亡人

7) ヘロドトス『歴史』1.85

8) 『民数記』第22章第28節。

9) ロジャー・ベーコン(c.1220-92)は降霊術にたけていたとのことで、喋る真鍮の頭を作ったと言われた。ロバート・グリーン『ベーコン修道士とバンゲイ修道士の栄光の物語』(1594)参照。

10) バンタムの人に関しては、第557号参照。

1) ウェルギリウス『アイネーイス』1.720-2

狩りとして認められている不幸せな殿方に有益な秘訣をいくつか習得しました。彼らはこの種の女性が一般的に言って、待ち伏せしているのだということが分かっていません。そこで、貴方に「寡婦クラブ」と呼んでいる女性のある秘密結社の謎をお伝えしたいと考えます。このクラブは週1回大きな楕円形のテーブルを囲む経験豊富な9人の夫人で構成されています。

一人目は会長夫人です。彼女は6人の夫を持ちましたが、今は7人目の夫を持つことは7番目の息子を持つくらいの効力があるとの考えから、7人目の夫を持つ決意を固めています<sup>2)</sup>。会長の僚友は以下の通りです。

二人目はスナップ夫人です。彼女はそれぞれ州の異なる4人の夫から寡婦資産を獲得しています。現在、彼女はミドルセックス州の男性と結婚しようとしているところで、トレント川からこちら側の全州に資産を拡張する野望を持っていると言われています。

三人目はメドラー夫人です。彼女は夫2人と情夫1人を持ったのち、今では60歳の老紳士と結婚しています。この老紳士と1週間同居したのち、クラブで報告して、寡婦と認められ会員の座に就いています。

四人目はクイック夫人です。彼女は夫が亡くなって2週間しない内に結婚しました。彼女の喪服は3度使用されましたが、今でも新品同様です。

五人目はキャサリン・スワロー夫人です。彼女は18歳で未亡人となり、それ以来、2度目の夫と2人の御者を葬り去りました。

六人目はウォドル夫人です。彼女は15歳で72歳の勲爵士サー・サイモン・ウォドルと結婚し、勲爵士の死後9か月で双子を授かりました。55歳で21歳の郷士ジェイムズ・スピンドルと結婚しましたが、彼は1か月持ちませんでした。

七人目はデボラ・コンクウェストです。この夫人にはどこか特別な点があります。彼女はかつて治安判事をしていたサー・サンプソン・コンクウェストの寡婦です。サー・サンプソンは背丈7フィートで肩幅が2フィートあります。彼は妻を3人持ちましたが、全員お産で亡くなりました。このため女性たちは誰もがサー・サンプソンとの結婚を渋りました。やっとのことで、デボラ夫人が彼を引き受け、彼のことをとても褒めましたので、3年すると彼女は合法的に彼の埋葬準備をし、棺桶の長さを測りました。この功績はクラブで大変な評価を受けましたので、彼女たちはサー・サンプソンの3度の勝利を彼女の勝利に加算して、彼女に4番目のやもめ暮らしという報いを与えました。そういうわけで、会員の資格を持っているのです。

八人目はキツネ狩りジョン・ワイルドファイヤー氏の寡婦です。ジョンは6番目の遮断棒で首の骨を折って死亡しました。彼の死をととても気に掛けましたので、もし彼の死の2か月後に近隣の紳士が言い寄って彼女の悲しみを晴らしていなかったとしたら、彼女は人生に終止符を打っていたものと思われました。この紳士は若いテンプル法学士の出現によって2週間で見捨てられました。この法学士は6週間持ちましたが、彼もまた同じように延

---

2) 『タトラー』紙第11号参照。

臣の職を諦めた傷心の役人によって打ち負かされました。この廷臣もまた前任者たちと同様に短命でしたが、37歳までのワイルドファイヤー夫人に連なる愛人の一人になったことを喜びました。彼女はその後10年間の中断がありましたが、この時点で、服飾小間物商ジョン・フェルトが現れました。そして、思いがけなく彼女をさらって行くものと思われま

す。九人目はお上品なラネット夫人です。彼女は16歳になるまでに最初の夫を悲嘆に暮れさせ、クラブの一員となりました。しかしすぐさま二度目の夫を素早く片付け、1年もしないうちにクラブに復帰しました。この若き夫人はクラブで最も勢いのある会員と見なされ、おそらく亡くなるまでには会長になることは間違いありません。

以上9名の夫人たちは、クラブ発足時に、クラブでは亡き夫のことを喋ることに決めましたが、そのうちの二人が死者のことを延々と喋りだしました。そこで、彼女たちは決定を考え直して、みんな夫のことは短くして自分のことを喋ることにしました。

彼女たちのほとんどが痲痛もちですので、強壯剤とアルコール飲料を貯蔵しています。お酒が入って感傷的になりますと、しばしば涙ながらに元のパートナーのことを称えることになります。しかし、どの夫のことが悔やまれるかと尋ねて見ると、答えることは出来ず、率直に夫を亡くしたことよりむしろ夫がいないことが悲しいと言います。

このクラブを律している第一原則は、あらゆる場合に、ほかの女性たちに結婚を思いとどまらせ、殿方たち全員を自分たちで独占するために、独身生活の喜びを激賞することです。

誰かに言い寄られたときには、その人の名前を伝える義務があります。そのときには、全員でその人の評判、人柄、財産などについて話し合います。そしてその人に資格があると認めると、全員でその人を確実に手に入れる方法を考え出します。こうやって、彼女たちはしばしば大きな気晴らしを与えてくれる町の未亡人狩り全員を熟知するわけです。このクラブのことを何も知らずに、ことあるたびにクラブの会員全員に言い寄っている正直者のアイルランド紳士がいるようです<sup>3)</sup>。

彼女たちの会話はしばしば元夫に向かいます。やきもち焼きを慰めたり、痲癩持ちを静めたり、善良な紳士を口車に乗せたりする術策や戦略の話聞くのは大きな気晴らしとなります。そして最後には、このクラブの言い方をすれば、「彼を死体にして家から送り出した」という話になります。

この女策謀家<sup>4)</sup>たちのクラブでさかんに育まれている駆引きは、主につぎの2点に関わります。ひとつは愛人の扱い方であり、もうひとつが夫の操縦方法です。1点目に関しては、あまりにも数が多すぎて貴紙の紙幅では足りませんので、つぎの紙面に残しておきます。

夫の操縦方法はつぎの原則をベースにしています。これには会員全員が例外なく賛同し

---

3) 財産目当てに結婚するアイルランド人は18世紀の文学にたびたび登場する。「財産目当ての結婚をする人」の英語は fortune-hunter。

4) 若きマキャヴェリは第305号に登場。

ています。まずは夫を自由に行動させないこと。あまり大きな自由となれなれしい言動を認めないこと。夫から未熟な女としてではなく、世事にたけた女性として扱われること。それまでの体形を何一つ崩さないこと。亡き夫の寛大さとかその他の美德を賛美し、後継者にそれを奨励すること。愛する男性を独り占めするために、かつての友や召使はすべて追い払うこと。男性に先妻の不実な子供たちを廃嫡させること。全財産が譲られるまでは、愛情を信用しないこと。

不寐にも長い手紙になってしまいましたこと、ご容赦ください。

草々

第562号 1714年7月2日（金曜日）

【アディソン】

あの隊長といるときでもいないでくれ。(テレンティウス)<sup>1)</sup>

カウリーによると、「自分のことを喋るのは慎重を要することで、自分を貶めることを言うときと苛立つし、賞賛するようなことを聞かされると、聞いている人は不快に思う」ということです<sup>2)</sup>。彼の言いたいことは、概して「虚栄」にその源があるということです。これ見よがしな人物は美点を喋るのを妨げられるというよりむしろ自らの犯した失態とか馬鹿げた行為を口にするのです。

とても偉大な著者たちの中にも、この過ちを犯している人がいます。とりわけ、キケロについては、彼の著作は概ね一人称に流れ、機に乗じて自らの真価を十分に発揮していると考えられます<sup>3)</sup>。ブルトゥスは、「彼の12月5日ほど、私が3月15日のことを繰り返し口にしていないからということで、私がカエサルを殺害したことよりも自らの執政権のほうに拍手喝采を得る価値があると考えているのか」と言います。学識のある読者には、3月15日にブルトゥスがカエサルを殺害したこと、そして、キケロが12月5日にカティリーナの陰謀を鎮圧したことはお知らせする必要はありません。この偉人が自らのことを語る事が同時代人にどれほど大きな衝撃を与えたことか。正直を言って、私はさほど満ち足りた気持ちにはなりません。こういった心情の吐露は人格に対する徹底的な洞察力を提供し、人生の出来事を飾ります。それ以外には、偉人の弱点を知ること、そしてその人物の意見が世間の人々と一致しているのを知ることにはほとんど喜びはありません。

学識と謙虚さではフランスの誰よりも著名なポールロワイヤルの紳士たちは、一人称での語り方を、見せびらかしと自惚れから生じるものと考えて、すべての著作から追放しました。これに対する嫌悪感を示すために、彼らはこの種の書き方に、古代の雄弁家たちには見当たらない表現である「自己本位」<sup>4)</sup>という名前を付けたのです。

1) テレンティウス『宦官』192

2) アブラハム・カウリー (1618-67)『随筆』11

3) ブルタルコス『英雄伝』「キケロ」24.1-2

4) 自己本位 Egotism はこの箇所が OED の初出。

私が読書をしていて出会った最も激しい自己本位は、ウルジー枢機卿の「私ならびにわが国王」<sup>5)</sup>という表現です。同様に、名高い随想録の著者モンテーニュもおそらく最も著名な自己本位の人物だったと思われます<sup>6)</sup>。この活動的なガスコニュ人は彼の身体上の弱点をすべて作品に織り込みました。そして、他人の欠点や美点を述べた直後に、その点が自分はいかに優れているかを披露するのです。もし彼が自分の考えを胸にしまっていたら、おそらくさほど楽しい著者ではなかったでしょうが、もっと善良な人物として認められていたかも知れません。随想録のタイトルからはウェルギリウスとかユリウス・カエサルについての論考が期待されるのですが、読んでみると、そのいずれかのことよりムッシュー・モンテーニュのことの方が目につくのです。この著者とさほど親密な関係ではなかったと思われる小スカリジェは、彼の父親がニシンを売っていたと知った後で、つぎのように付け加えています<sup>7)</sup>。「私はどうかと言われれば、白ワインの方が好みだ」とモンテーニュは言います。「彼のワインの好みは白か赤かなんてことが、一体、人々にどんな意味があるのだ」とスカリジェは言います。

ここで私は前々から忌み嫌っている自己本位な集団、つまり、回顧録を著す人々について触れざるを得ません。彼らは自分のことしか書かず、ただこの1点から著作に励むのです<sup>8)</sup>。

今日の序文の大半は自己本位の強烈な香りがします。取るに足らない著者の誰もが、自分が本を書いたこと、暇つぶしに書いたのだということ、友人にせがまれて書いたのだということ、あるいは、持ち前の天性、研究、あるいは社交からこのテーマを選んだということを知ることが人々にとって大切なのだと思っています。「もちろん世間はそういうことを気にする」<sup>9)</sup>というわけです。こういった情報は読者にとって大いに道徳的な恩恵となるに違いありません。

ユーモアに富んだ作品では、特に架空の人物を登場させて書くときには、その人物について語るのは人々にとって若干の楽しみとなるかも知れません。しかし、その他の著者には、性格にとくに注目に値する何かがない限り、自分のことを語らないようにお勧めします。もっとも、このルールが人々にはほとんど役に立たないことは分かっています。なぜなら、どんな人でも自分の考えを公表する価値があると思っており、自分を注目に値する人物と考えているのですから。

本日の紙面は会話で自己本位な人について触れて締め括りたいと思います。こういった人たちは一般に虚栄心が強いが浅薄であり、彼らは自分にほかに何も無いときには当然非常に高慢になります。誰も目にとめていないと思いますが、ごく一般的な自己本位な人が

---

5) シェイクスピア『ヘンリー8世』第3幕第2場315行。

6) 『タトラー』紙第83号参照。

7) スカリジェ(1540-1609)はフランスの学者で年代学の創始者。『暦の訂正について』(1583)などを著した。

8) 『タトラー』紙第84号参照。

9) テレンティウス『アンドロス島の女』185

います。私の言いたいのは口先だけの自惚れ屋さんのことです。彼らは生まれる以前からあり、誰もが何回も聞いたことのある冗談を自分あるいはある特定の友人の発言として繰り返して口にします。私の知り合いの厚かましい若者はこの愚行を繰り返します。彼はいつも使い古した機知に新たな場面を用意して、自分とジャック誰某とが一緒にいたとき、どちらか一方がしかじかの時にしかじかの奇抜な考えを思いついたのだと言います。それから、高らかに笑い、みんなが乗って来ないことに首をかしげるのです。彼の浮かれ騒ぎが終わると、私はしばしばテレンティウスの「その言葉はあなた様の発明なのですか。古い言い回しだとばかり思っていました」<sup>10)</sup>という台詞を用いて彼を戒めたのです。しかし、彼がそれでも手に負えないことが分かり、それ以外では善良な若者である伊達男のことを思いやって、同種の冗談が載っているオックスフォードとケンブリッジの冗談集を読むようにと勧めました<sup>11)</sup>。彼はその冗談集を読むと、自分の冗談はすべて何度も版を重ねたものであり、新たな思いつきだと考えて、自分が使えると思っていたものが自分や利口な友人が耳にする以前から本になっていたことを知って、ひどく困惑しました。このことが効力を発揮しましたので、彼は今では率直な人物であることに満足しており、仲間内であるとき以外にはふざけることはありません。

#### 第563号 1714年7月5日（月曜日）

強大な名前の単なる影。(ルカヌス)<sup>1)</sup>

読者にとっても興味深い2通の手紙を紹介したいと思います。1通目は奇想天外な人物からのもので、ほかの誰宛てにも出されていないと思います。

拝啓

私は実業界ではよく知られている古くからあるブランク家の血を引く者です<sup>2)</sup>。わが一族は白地の空白となっており、書き込まれるのを心待ちにしているわけです。そのためブランク・スペースということで、その名はまさしくわが一族にふさわしいのです。私自身は自分のことを特定の個人の占有に帰していない荒地の所有権を主張する荘園の領主だと考えています。私はジョン・ア・スタイルズやジョン・ア・ノウクス<sup>3)</sup>の近親者です。彼らは征服王と共にやって来たとのこと。両院ではグレート・ブリテンの誰よりも頻繁に私の名前が取り上げられます。私の名前は「私はあらゆることに手を染めることが出来、どんな姿にもなれる。自分を男、女、あるいは子供にすることが可能である。時には1年、1日、1時間ごとに変身します。しばしば金額の代わりにし、通例、国王に与えられる最

10) テレンティウス『宦官』428

11) 『オックスフォード大学の冗談』（1700年に第8版）、『ケンブリッジ大学の冗談』（1700年に第6版）。

1) ルカヌス（39-65）『ファルサリア』1.135

2) デイヴィッド・ルイス『雑詩集』に「ブランク家について」が収録されている。

3) ノウクスは訴訟を起こしている当事者の仮名。

初の特別補助金となります。時折各地の兵士の代わりを務めたことがありますし、しばしば海の仕事に従事したこともあります。

ところで、私の不満は、私が代用としてしか利用されず、適任者が見つかるとすぐにお払い箱になってしまうことです。

もし貴殿が開演前の芝居小屋に行ったことがあれば、ボックス席の前席のほとんどが一族の家来で占められているのがお分かりいただけます。彼らは主人たちがやって来ると直ちにその席を明け渡すわけです<sup>4)</sup>。

ブランク家の最も輝かしい分家は高い地位に就いている人々であり、彼らは代わりとなる有力な人物が見つかるまでその地位を維持することが出来ます。こういった人物は同様にあらゆる職に就く資格を有します。必要に応じて、兵士、政治家、弁護士、あるいはその他どんな職にも就けます。私はこれまでに、代わりの有力者が現れるまでに、莫大な富を蓄積し、名士となった幸運な星の下に生まれた多くの兄弟を知っています。それどころか、あまりにも手強く物騒な人物なために排除できなくなるほど長い間、空席（これは常にブランク家の人が埋めるものとされてきましたので）を占領したブランク家の人物を知っています。

ところで、私自身のことに話を戻しますと、私はとても便利で、きちんとした政府では必要とされる人物ですので、私のことを斟酌して、単なる穴埋めとして使われる道具にしないでいただきたいと願っています。道具として使われますと、洒落にもなりません、私はこの上なく「空白」な人間になってしまいます。そういう次第ですので何卒貴殿の援護をお願い致します。

敬具  
ブランク

追伸：二人の紳士から依頼を受けた田舎の事務弁護士が作成した書類を同封します。この弁護士は二人の名前を知らず、紳士たちは自分たちの案件の秘密を彼に明かさない方がいいと考えたのです。私が聞いたところによると、彼はこれを空白の道具と言っているようです。これはつぎのように解釈されます。この一例をご覧になっても、多忙な世間であって私がいかに有益であるかお分かりいただけます。

「ブランク州ブランク町の郷士私ティー・ブランクは、ブランクの商品を調達してくれたことに対し、ブランク氏にブランク額の借りがあることを認める。したがって、当該ブランク氏に、来るブランク月のブランク日に当該ブランク額を支払うことをここに約束する。違反した場合には当然料金を払うものとする。」

この仮想の寄稿者のケースについて論議するには時間がかかると思います。そこで、その間に、読者に人間味あふれる人物のものと思われる手紙をご紹介しますと思います。

---

4) 芝居が始まるまで、従僕が主人のための席取りをするのが習わしだった。第168号にも登場する。

## 善良なる観察者様

私はこの上なく善良で、同時にとても怒りっぽい誠実な紳士と結婚しています。彼がかつとなっているときは居場所がありませんが、怒りが治まるとこの上なく上機嫌になります。彼は腹を立てますと目についた陶磁器を割ってしまい、翌朝割った二倍の陶磁器を届けます。結婚してからこれまでに、彼は確実に私から子供の財産を奪ったと言えます。

彼がいらいらし始めますと、彼のステッキの届くところにある物はすべて倒れてしまいます。一度ステッキを持たないようにと説得したことがありますが、一切効き目がありませんでした。というのは、私が何か彼の気に入らないことをするのを見ると、ほんの1週間前に10ポンド以上した大きな壺を足で蹴って壊したのです。そのとき、私は破片を拾い集めて、たまたま腹を立てる場合には、癩癩を二束三文の陶磁器に向けることを願って彼に再びステッキを渡しました。しかし、その翌日のこと、私が召使に伝言を間違えて伝えると、彼は烈火のごとく怒って、運悪く一撃で都合のよいところにあったティーカップ12個を叩き落としたのです。

そこで、私は陶磁器類をすべて彼が入らない部屋に移動させました。でも、これも何の役にも立ちませんでした。なぜなら、たちまち私の姿見が粉々になってしまったのですから。

要するに、彼は怒るといつでも、あらゆる壊れ易い物に怒りをぶつけるわけです。怒りをぶつける対象が何もない場合には、私の骨も無事とは言えないのかも知れません。観察者様、この不可解な気質を矯正する方法がございましたら何卒お教えいただけませんか。もしそのような方法がないようでしたら、この手紙を公表なさってください。なぜなら、彼は貴方がお書きになったことをとてもありがたがりますので、貴方がこの手紙を公表なさることで、自分の振舞いが認められていないことに気づくからです。

敬具

第564号 1714年7月7日（水曜日）

【バジエル】

罪にはそれぞれ相応のまともな刑を科すための秤があるはずだ。  
 そうでなければ、笞打ちで済ませる程の軽い罪を  
 大変ひどい刑罰にかけるといったことになる。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

日々激情を抑制し、偏見を捨てることは哲学者の仕事です。私は少なくとも公平な観察者として人々および人々の行為を観察するように努めており、自分自身の関心を助長するか拒むかといった点は度外視しています。私はこれに専念していますが、周囲の人々が偏見と性癖によって分別を失くしていると言わざるを得ません。彼らはあらゆる人について無能か万能かといったことを即断してしまうのです。一方、人間性を深く探求する人々は

1) オウィディウス『諷刺』1.3.117-19

人の価値を決めるのはとても難しいことであり、一言では言いにくいのだということに気づいています。確かに、完全に善とか完全に悪といった人物は存在しません。程度の差はありますが、どんな人にも美德と悪徳が混在しているものです。申し分のない優れた資質を調べて見ると、しばしば、それが数多くの均斉を欠いた激情のために傷つけられ浸食されているのが分かります。

ある著名な著者によれば、人間というものは完璧な人物はいなく、矛盾した存在だということです<sup>2)</sup>。彼らは一貫性を保つことより極端に与する方が容易であることに気づいています。このことはクセノポンのキュロス2世伝で見事に例証されています<sup>3)</sup>。クセノポンはつぎのように語っています。キュロス王はアブラダラスの妻である美貌の婦人パンテイアを手に入れた後、彼女をペルシアの若き貴族アラスパスに委ねました。この貴族は最前、真に徳高い人物は背徳的な情熱を抱くことは出来ないのだと主張したところでした。この若い紳士が美しい人質を任されて間もなく、彼が不在の夫の代わりに自分を受け入れてくれようとせがんだだけでなく、懇願では効き目がないと分かると、力づくで自分の言うことを聞かせようとしているという苦情がキュロス王の元に寄せられました。この若者を愛していたキュロス王は、直ちに彼を呼び寄せて、優しく彼の誤りを指摘し、先だっで行っていた彼の主張を思い出させますと、すぐさま自責の念と恥辱感にとらわれて狼狽した彼は突然泣き出して、つぎのように語りました。

「ああキュロス王、自分には明確に二つの魂があるのです。あの件につきましては今では不正なソフィスト、エロスとの哲学を終えています。魂は一つでありましたら、善の魂であると同時に悪い魂であることはありませんし、美しい行為を求めると同時に恥ずべき行為を求めるときもありませんから。また、同じことをしようと思うと同時に、しようと思わないということもありません。しかし、魂は二つあるのは明白でして、善い魂が優勢ですと美しいことがなされますし、悪い魂が優勢ですと恥ずべきことが企てられます。今では魂は殿下を同盟者として得ていますから、善い魂が完全に優勢に立っています」。

わが読者がこの考えを認めるかどうか、私には分かりませんが、認めないとしますと、一つの魂には二つの魂のようにさまざまな情熱があるのだということに認めることとなります<sup>4)</sup>。これまでの偉人伝を読んだり、現代の著名人たちと話したりしますと、必ず私が言っていますことの実例に出会います。

ここまで、美德と悪徳、善と悪を併せ持っている人をひとくくりにして評価を下すという不公平さと不当さについて反論を述べて来ただけですが、これをさらに推し進めて、行為全般に敷衍します。一方で、あらゆる状況を公平に考慮するとなれば、さらなる不快感を避けるために、一見して非難せざるを得なくなることが頻繁に生じます。その一方で、目がくらむほどの行為を事細かに調べて見ますと、その大半が邪な野心、あるいは邪悪な企てが生み出した欠陥のある不十分なものであることが分かります。奇妙なことに、まさ

2) ラ=ブリュイエール『人さまざま』(1688)。

3) クセノポン『キュロスの教育』5.1.2-18, 6.1.31-41

4) バスカル「宗教について」参照。

に同じ行為が時として状況によって左右されますので、それは報われるべきか罰せられるべきか判断しがたいのです<sup>5)</sup>。イングランドの法律を編纂した人たちはこのことをよく理解していましたので、法格言の一つとして「不断の不便よりも一度の災害のほうがよい」を定めたのです<sup>6)</sup>。このことは、言い換えると、社会の苦情を取り除くことより個々人が不当な扱いに耐えることのほうがよいのだと言えます。これは普通法律が作られたとき予見できなかった特定のケースで特定の人物に降りかかるあらゆる苦難を正当化するさいに申し立てられます。しかしながら、これをできるだけ迅速に修正するために、大法官庁が創設され、刑事事件の場合は今でも赦免の権利が国王にあります<sup>7)</sup>が、人々の財産に関しては慣習法の効力を軽減し断ち切っています。

それにもかかわらず、おそらく大きな政府では賞罰をあらゆる行為にきちんと配分することは出来ません。スパルタはこの点に関してとても厳格でした。これまで読書してきた中で、プルタルコスが記録したもののほど見事に公正さを示している例に出会ったことはありません。本日の紙面を締め括るにあたって、これを取り上げることにします。

強力なテーベ軍から予期せぬ攻撃を受けたスパルタは、敵の手に落ちる大変な危機に瀕しました。急遽市民たちが集まって不屈の精神でこの事態に立ち向かいました。両軍が驚いたことですが、フォイビダスの息子イサダスほど目覚ましい活躍をした人はいませんでした。彼は若い盛りで姿形も美しい人物でした。非常呼集がかかったとき、風呂から出たところでした。そのため、彼には衣服、いわんや鎧をつける時間はありませんでした。しかしながら、彼はこの緊急事態に国のために尽くすのだという気持ちで夢中になって、片手に槍、もう一方の手に剣を持ち、密集した敵軍の中に突っ込んで行ったのです。猛烈な彼の行く手を阻むものはなにもありません。かすり傷一つ受けずに敵を蹴散らしたのでした、神がその勇気を愛でて彼を守ったのか、それとも敵が彼の尋常でない衣装と美貌に驚いて、彼を人間以上のものと考えたのか私には分からない、とプルタルコスは語っています。

スパルタの人たちがこの勇敢な行為をととても評価しましたので、エフォルスつまり民選長官たちは彼に冠を授けました。しかしその後で彼が武器をつけずに戦いに出たかどで1千ドラクメの罰金を科したのです<sup>7)</sup>。

第565号 1714年7月9日（金曜日）

【アディソン】

神はすべての被造物に靈感を与える。  
神は、天に、地に、大洋に威光を降り注ぎ、  
それらを輝かせるのだ。(ウエルギリウス)<sup>1)</sup>

5) ポープ「コバム卿への手紙」参照。

6) ウィリアム・ウォーカー『アングロ・ラテンの格言集』（1672）。

7) プルタルコス『英雄伝』『アゲシラオス』34.6-8

1) ウェルギリウス『農耕詩』4.221-2

昨日、日暮れ時広々とした野原を歩いていましたら、いつの間にか夜になりました。初めのうちは西空に浮ぶさまざまな色合いを楽しく眺めていました。この色合いが薄れ消えて行くにつれて、星や惑星がつぎつぎに現れて、空全体が真っ赤になりました。雲の上の澄んだ天空の青さは、季節のせいと天空を通過する発行体の光線によって、その輝きを増し、活気づいたのです。銀河は実に素晴らしい白色の輝きを見せました。この光景の仕上げに、ミルトンが関心を寄せたように<sup>2)</sup>、やっと群がる雲に包まれた満月が厳かに昇って来て、それまで太陽が見せてくれていた光景よりも繊細な陰影を帯びた、柔和な新たな光景が醸し出されました。

月が輝きを放ちながらゆっくり星座の間を進んでいるのを見ていたとき、私が思うにしばしば真面目で默想的な人たちを困惑させる考えが浮んで来ました。ダビデ自身がその思いに駆られました。「わたしは、あなたの指のわざなる天を見、あなたが設けられた月と星とを見て思います。人は何者なので、これを御心にとめられるのですか、人の子は何者なので、これを顧みられるのですか<sup>3)</sup>。同様に、私は、それぞれの恒星の周りを移動している無数の惑星つまり世界と一緒に、私たちの頭上に光を降り注いでいる数え切れないほどの星、もっと理屈っぽく言いますと、無数の恒星を見て思いました。この考えをさらに拡大し、私たちの目に見えないさらに上空の恒星と世界のことを考えました。これらもまた、はるか彼方にある超越した発行体によって照らされていますので、先の住民たちも現在の私たちと同じような見方をするかも知れません。要するに、このようなことを考えていましたら、無限の神の御業の中で、あの有意な人物について考えざるを得なくなりました<sup>4)</sup>。

もし被造物であるこの地球を照らす太陽が完全に光を失い消滅してしまえば、数多くの惑星があるにも関わらず、それらはせいぜい海岸の一粒の砂にしか見えないだろう。これらの惑星が占める空間は、全体から見るとごく限られたものなので、創造の観点では空白とは言えません。自然全体を受け入れ、死後の私たちあるいは現在私たちよりも高尚な被造物にはある種の感覚がありますので、自然全体を受け入れるこの深淵は目に見えないのです。私たちは望遠鏡で裸眼では見えない多くの星を目にします。望遠鏡の精度が高まればそれだけ発見も増えます。ホイヘンスは研究を続けた結果、いかなる星も創造されてこの方、地球にその光を伝えているのだと考えています<sup>5)</sup>。宇宙にはある種の境界があるのは間違いありませんが、宇宙は無限の善意に促されて、無限の空間に、無限の力が御業の結果だと考えれば、私たちの想像力には限界はないのです。

それゆえ、最初の話に戻しますと、私自身のことを密かな恐怖を覚えながら、神の保護と監視下で大変な仕事をしている、取るに足らぬ存在だと思わざるを得ませんでした。広大無辺な自然の中で見落とされ、無限の被造物に囲まれて途方に暮れ、おそらく計り知れ

2) ミルトン『失樂園』第4巻607行。

3) 『詩篇』第8篇第3、4節。

4) これはバスカルの『パンセ』72を連想させる。

5) クリスチャン・ホイヘンス(1529-95)はオランダの物理学者・天文学者。光の波動説を説いた。

ない物質界に群がることを恐れたのです。

この屈辱的な思いから立ち直るために、神を受け入れることになるのはこういった限られた考えから生じるのだと考えました。私たちは一度に様々な対象に専念することは出来ないのです。あることに専念する場合は、当然、別のことは無視しなくてはなりません。私たち人間が持つ不完全さは、被造物は有限の存在ですので、最高位の能力が備わった被造物にもある程度行き渡っている不完全さと言えます。すべての被造物の存在は一定の空間に限定されており、その結果、観察も一定の対象に制限されています。全存在の階級では私たち人間は上位に位置していますので、私たちが動き、行動し、理解する領域はそれだけ広いものとなっています<sup>6)</sup>。ところで、最も広い領域にはそれに見合った広さがあるものです。そこで、神について思いを巡らせますと、私たち人間の不完全さは自明の理ですから、私たちはある程度その不完全さを不完全さの気配が何一つない神のせいにはせざるを得ません。確かに、理性は神の属性は無限だと教えてくれます。私たちの着想は貧弱なものですから、熟考するあらゆることに制限を加えざるを得ません。そして最後には理性は救いの手を求め、気づかないうちに生起する、ごく自然な些細な偏見をすべて投げ捨てます。

その結果、多種多様な御業の中で私たちが神から無視されているのだという嘆かわしい考えを完全に払拭することになります。そして、神を必要としていると思われる対象は無限であり、考えて見ると、そもそも神は遍在しているのであって、つぎに、神は全知全能なのです。

神の遍在について考えて見ると、神は自然のすべての枠組みに行き渡っており、それらを始動させ、支えているのです。神の創造、そしてその一つ一つには神が満ち溢れているのです。神がこしらえた物には、どんなに遠い物であれ、些細な物であれ、取るに足らぬ物であれ、本質的に神が住んでいない物は何一つありません。有形、無形を問わずあらゆる存在には神性が宿っており、ごく親密な関係を保っています。もし神がある場所から別の場所に移動させる、あるいは、自らが創造したもの、または、無限に広がる空間のどこから撤退することが可能なら、それは神の不完全さということになります。要するに、古の哲学者の言葉を借りて神のことを語るとすれば、神はその中心がどこにもあり、その円周がどこにもない存在なのです<sup>7)</sup>。

第二に、神は全知全能だけでなく遍在しています。確かに、神の無限の知識は必然的にかつ自然に彼の遍在から流れ出て来ます。神はすべての物質界で生じるあらゆる動きを意識せざるを得ません。神は本質的に物質界全体に浸透しており、知的世界で起きているあらゆる考えに、密接に繋がっています。創造を神が自らの手で建て、その存在で満ち溢れた神殿だと考える道徳家たちがいます。また、無限の空間を容器というか全能者の在所だと考える道徳家もいます。しかし無限の空間を最も気高かつ高尚に考えたのはサー・ア

6) A.O. ラブジョイ『大いなる存在の鎖』第4章参照。

7) バスカル『パンセ』72参照。

イザック・ニュートンです。彼は無限の空間を「神の感覚中枢」と呼んでいるのです。獣や人間は小さな感覚中枢を備えており、これによって神の存在を感知し、自分たちに繋がっているいくつかの対象の行為を知覚します。獣や人間の知識や観察はごく限られた範囲に留まります。しかし、全能の神は神が住む世界のあらゆる物を知覚しますので、無限の空間は無限の知識にその機会を提供し、いわば、無限の知識の器官となります。

魂が肉体から遊離し、ひらめきから創造の境界を超えて無限の空間を相変わらず何百万年間もその歩み続けるなら、神に抱かれていること、そして、神の広さに包まれていることに気づくに違いありません。私たちが肉体に閉じ込められている間は、神は姿を見せません。「どうか、彼を尋ねてどこで会えるかを知りたいものです。見よ、わたしが進んでも、彼を見ない。退いても、彼を認めることができない。左の方に尋ねても、会うことができない。右の方に向かっても、見ることができない<sup>8)</sup>」とヨブは語ります。手短かに言うと、啓示だけでなく理性によって、神は姿を見せないけれど、私たちと共にいるのだということを確信するわけです。

全能の神の遍在と無限の知識についてこのように考えますと、不安な考えはすべて消えます。神は存在しているあらゆる物、とりわけ無視されていると恐れている被造物すべてに注意を払っておられるのです。神はあらゆる考え、とくに私たちに悩ます不安に対して密かに関与なさっておられるのです。神はいかなる被造物をも無視することは出来ませんので、自分たちは心からそれに値しないと謙虚に思っている人々に慈悲の眼差しをもって注意を払っておられるのだということが確信できます。

第566号 1714年7月12日(月曜日)

【バジエル】

恋愛は一種の戦いである。(オウィディウス)<sup>1)</sup>

寄稿者がかなりな数になり始めていますので、これを無視するわけにはいかないと思います。そこで本日の紙面にはさまざまな手紙を掲載することにします。観察者の仕事を始めてこの方、威勢の良い紳士諸氏から沢山の手紙をいただいています。私が思いますに、この紳士たちはとても活動的でじっとしてられないのです。彼らは概ね、家を守る女性は男性の外での貢献が報われて当然であり、田舎に用事があって呼び戻されるまでは、自分たちにはご婦人方を自由に追いつく権利があると考えています。自分たちのやり方を支持してもらいたいために、ある人々から実績について詳しく語って欲しい、またある人からはアタックするさいの助言を与えて欲しいとの要請があります。だがまず、紳士諸氏が何を語っているか耳を傾けることにします。

8) 『ヨブ記』第23篇第3章8-9節。

1) オウィディウス『詩の技法』2.233

## 観察者殿

和平の策が画策されている中で、戦争の話をするにはいささかつむじ曲がりと思われるかも知れませんが、和平そのものはある意味で神に感謝すべきものですので、死者の霊に祈りを捧げることが感謝の気持ちを表すことにほかなりません。

貴殿はこれまでの紙面で、いつも女性に親切にするようにと奨励なさっておられます。そこで、紳士として鍛え上げるのにすべてがふさわしくないとは言えない武勇伝の一部を紹介しても許していただけるものと考えます。貴殿にはお伝えする必要はないと思いますが、我々がかつてその流行をとて好んだフランスでは、ほぼすべての人々は長所を示すために剣に頼ったのです。女性に言い寄るためには、自分を好ましく思わせるための奉仕をして信任状を手に入れる必要があります。告白というものは大昔からあるのですから、古代ローマの偉人たちについて考えることはそれなりの根拠があります。彼らは美点の多くをここから得たのです。指揮官はしばしばその時代の最も卓越した人物が務めました。

軍隊は、人に忍耐と勇氣という二つの大きな美点を受けるチャンスを提供するだけでなく、しばしばそれまでに考えたこともないようなことをも考えさせてくれます。軍隊は人間に対する全般的な理解力と軍隊以外では簡単に入手出来ない一定の行動の自由を手に入れるための最良の学校の一つだと付け加えて置かなくてはなりません。同時に認めなくてはなりませんが、軍隊の雰囲気にはかなり異常なものがあり、また、伊達男で軍隊に入隊する人は除隊のときにはみんなに嫌がられる人物になっているのです。しかし、良識のある人とかそれまでに男女の会話に十分慣れていなかった人は、概ね、確かな変化を遂げます。求愛はいつの時代でも正しい作法の規範とされて来ました。「もっぱら商売人になるように躰けられた人は廷臣の雰囲気を手に入れることは出来ないが、野営に入れられると直ちにそれを手に入れるだろう<sup>2)</sup>」というラ＝ロシュフコーの意見ほどの的を射たものはないと思います。なぜなら、正しい作法の真髓はいくつかの微妙な点にあるからです。これらはとても微細であるために注意が行き届きませんので、お手本としたい原型にまで達することはありません。目の前のお手本に添おうとするのですが、度を過ぎてしまうと分かりその寸前で立ち止まってしまいます。2、3日前に、ユーモアに富んだ紳士が友人について「彼は伊達男を気取りたがっているだけだ」と言っているのを聞いてとても楽しくなりました。この紳士にすれば、普段の生活での用心深さと無関心さをほんの少し分かっているだけで、こういったことは軍隊の紳士たちには自明の理であって、軍事行動を1回か2回実践すれば必ず身に付くと言いたかったわけです。

このように私が軍事教育について贅辞を述べていることから、貴殿は容易に推測なさることでしょうが、私自身が兵士であり、実際その通りなのです。私は除隊後3年しない内に、田舎での新兵補充に狩り出されました。これは著しい成功を収めました。これに加えて、田舎に引き籠るとき、その気になれば州で一番の資産家である若い婦人を伴うことが出来たものと確信しました。その時、私は他の何物よりも名声の追求を選びました。そし

---

2) 『道徳的格言』(1706) 参照。

て、無条件に義足を覚悟するわけではありませんでしたが、ヨーロッパのために少なくとも傷を一つや二つ負う決意をしました。現在は、私は望んだだけの名誉を手に入れていません。貴殿から適切な推薦をいただければ、優しい女性と田舎でのかなりの資産に囲まれて満ち足りた気持ちで余生を過ごすことになります。私が思うに、これは戦争が終わって鋤に帰った古代ローマの独裁官ルキウス・キンキナトゥス<sup>3)</sup>の例に倣うことになるのです。

あらん限りの敬意を込めて、ウィル・ウォーリーより

#### 前略

小生は休職給を貰っている将校で、目下、田舎暮らしをしています。近隣に裕福な未亡人がおり、彼女は50マイル圏内にいるキツネ狩りの狩人たち全員をコケにしています。彼女は結婚の意向を表明していますが、いまだお気に入りの男性から声がかかっていません。彼女はいつも謙虚な求婚者たちに1、2度拝謁を許しますが、いったん拒絶してしまますと、二度と会うことはしません。彼女の親族の女性から、小生が彼女と正々堂々とやり合うことを保証されています。成功するか否かはすべて最初の接し方次第ですので、強襲を仕掛けるべきかそれとも坑道を掘って進むべきか貴殿の助言をいただきたいと思います。

草々

追伸：お伝えするのを失念していましたが、すでに彼女の外堀のひとつ、つまり、彼女のお手伝いをひとり確保しています。

#### 前略

小生はオランダの攻囲に何度か立ち会ったことがあります。そこで、今でも兵士であり技師としての才能を活用したいと考えています。今朝7時には、しばらくの間小生を拒絶していた強情な女性の家の戸口に立ち、12時ころにははずれにある応接間に陣取りました。それでも、小生は諦めませんでした。すると、午後2時ころ、彼女は降伏するのに適当と考えました。彼女の要求は実際、資産の譲与に関しては幾分高いものでした。しかし、小生には家がありますので、「白紙委任」を主張する積りです。そして、丸い1日ほかの求婚者たちを寄せ付けないことで、彼女を従順にさせることになるものと期待しています。迅速な助言をお願い致します。

草々

ピーター・ブッシュ

4日土曜日の午後、レッド・ライオン・スクウェアの野営地に<sup>4)</sup>

3) キンキナトゥスは独裁官に任命されたが、いやいやその任についたが17日間しかもたず、その後は農業に戻った。

4) ハットンによると、このスクウェアは周囲に立派な建物がある素敵な場所とのこと。ハイホルボーンとフィールズの間にあった。

第567号 1714年7月14日(水曜日)

【アディソン】

声を上げる者があるが、じつにか細い。  
叫ぼうとしても、口が空しく開くだけだった。(ウェルギリウス)<sup>1)</sup>

もし私が紙面に普遍性を与えようとしているなら、スキャンダルを添えるべきだという私的な助言をある寄稿者からいただいています。実際、このところ御大層な名前と輝かしいタイトルのついた著述が売れています。読者は一般に目新しい書物に目を留め、文章がダッシュで分離されていると分かると、それを買い求めてとても満足そうに読みます。エムとエイチとティーとアールをハイフンでつないだ人物の退屈なパンフレットが数多く売られています<sup>2)</sup>。それどころか、ある物は2、3のしっかり書かれた等々のお陰ですべて売り切れたのです。

党派、フランス人、カトリック教徒、略奪者などの意味深な言葉がイタリック体で記されるだけで、購買者にはとても効果的です。風刺家、嘘つき、悪漢、ごろつき、悪党といった言葉は言うまでもありません。こういった言葉がないと、現代の会話に加わることは出来ないのです。

党派性を意識している執筆者たちは当てこすりが持つ密かな力が分かっていますので、個々人は敬意を払って口にするのですが、最近では、じ〇〇うとかカ〇〇トについては決して言及しません。こういった謎めいた出版物の読者にとっては、人の手を借りずに解説し、自分の力で空白を埋めたり、最初あるいは最後の一文字だけの単語を判読できたりすることが大きな満足感となるのです。

確かに、いつも以上に皮肉を言おうとするときには、偉大な人物名の母音だけを省き、子音に情け容赦なく襲い掛かる著者がいます。この書き方は最初滑稽な思い出を持つティー〇エム・ビーアール〇エヌによって持ち込まれました。彼は中間の母音を骨抜きにして著作にそれを記し、法律の網をかいぐり好き放題に振る舞ったのでした<sup>3)</sup>。

こういった名高い著者に倣い、いつも以上に魅力的な新聞を発行するために、非常に面白い中傷文を作成しました。鋭い読者ならここに相当な風刺が潜んでいることが分かります。そして、現状に通じている人ならその意味がすぐに分かります<sup>4)</sup>。

「わが国にあらゆることを混乱に巻き込み、破滅させようとしている人物が4人いるとしたら、誠実なイン〇シュ〇ンは全員警戒すべきだ、と私は考えます。〇〇や△△は言うまでもなく、友人でお気に入りの××と一緒に◇◇の名前をあげるのを聞く人は誰でもそんな人物がいるという私の意見に賛成することでしょう。こういった人たちは気が済むまで「教〇」「教〇」と大声を上げるかもしれません。お馴染みの諺を引くと、「プ〇〇の品質

1) ウェルギリウス『アイネーイス』6.493

2) エムとエイチとティーとアールはモールバラと大蔵卿のこと。

3) 風刺家トム・ブラウン10年前の1704年に亡くなっていた。

4) これについては、ウェントワース・ペーパーズで言及された。

検査は食べてみることになる」ということになります。もしある君主がある高位聖職者と意見が一致すれば、(ムッシュー〇〇の言葉がありますが)、わが子孫は〇〇に陥ることになるのは確かだと思います。〇〇夫人が怒っているからといって、いやはやイギリス国民は耐え忍ばなくてはならないのですか。あるいは、かつて海洋の脅威だったわが国の艦隊が〇〇のために航行不能になるなんてことが理にかなったことですか。私はわが国の善人のことを話しているときには本音を明快に喋るのが好きです。悪人については、その人が〇〇あるいは〇〇であっても、機嫌取りは致しません。それどころか、その人物は国にとっての上なくあさましい政治家、反逆者、敵対者、そして〇〇だと呼ぶのです。

グレート・ブリテンの非常に名高い著者たちに倣って書いた以上の政治的なお話の続きは、適宜お伝えすることにします。それまでは、巧みな著者たちが謎掛けをするように、好奇心の強い読者の手に委ねます。もしどなたか聡明な人が確実に謎解きをなさいましたら、その人の解釈を活字にしますし、よろしければみなさんにそのお名前もお知らせします。

以上の短い随筆によって、私が国事に関する小冊子を避けるのは私の能力不足ではないことをわが読者に分かって欲しいと思っている次第です。もし私がこれに手を染めれば、すぐにも当代きっての政治的走書きの達人となることは間違いありません。一言付け加えて置きますが、今日はびこっている「語中音を端折る人たち」<sup>5)</sup>を顔色無しにするために、近いうちに母音を端折ったスペクテイター紙を公表する積りです。

第568号 1714年7月16日(金曜日)

【アディソン】

あなたが私の詩を復唱するときは、それは  
私の詩ではなくあなたの詩なのです。(マルティアリス)<sup>1)</sup>

私は昨日、王立取引所近くのコーヒーハウスにいましたが、そこに、タバコをくゆらせながら親密に話をしている3人が目に留まりました。そこで私は自分のパイプにタバコを詰めて彼らのそばにある小さなロウソクで火を付けました。二、三服してから、腰を下ろして、その仲間に加わりました。わが読者にお伝えする必要はありませんが、同じロウソクでパイプに火を付けることは、喫煙者仲間では会話と友情の打診と見なされます。各人の吐き出す煙に包まれてとても友好的に頭を寄せ合っているとき、スペクテイター紙の最新号を手にして、目を通しながら、「スペクテイター紙はこのごろとても機知に富んでいるね」と私は言います。すると、テーブルの向かい側の太って気だるい感じの老紳士が、しばらく口に溜め込んでいた大量の煙をゆっくりと吹き出しながら「そうね、賢明というよりは機知に富んでいるね」と返して来ます。この紳士の右側に座っている人がすぐさま

5) 「中音を端折る人」英語で Syncopist でその場限りで用いる語。この箇所がOEDの唯一の例。

1) マルティアリス『警句』1.38.2

顔を赤らめ、怒れる政治屋さんになり、激昂してパイプをたたきつけて折ってしまいました。それで、私はタバコ詰め具を手に入れることになりました。私はとても冷静にそれを手にして、彼の顔をじっと見詰めながら、彼が喋っている間、何度かそれを使用したのです。「この人物は一生政治を避けることはできっこない。ここにいる偉大な4人をどれだけ傷つけていることか」と彼は言います。私は紙面にとっても注意深く目をやり、星印で書かれている人たちのことを言っているのですかと彼に尋ねました。「星印、あなたは彼らのことをそう呼ぶのですか。あの人たちは全員スターなのです。全員ガーター勲章を貰って当然なのです。それなのにつぎの2, 3行はどうです。教〇とプ〇〇が同じ文の中にあるなんて。牧師は彼に大きな恩義があるのです」と彼は言います。すると、性質がおとなしく、見たところホウィッグ黨員と思われる三人目の紳士が、スペクテイターのことをそんなに辛辣に言わないで欲しいと言いました。「彼は怒らせることに大変慎重になっていて、プディングと書くのに〇を2つも入れているのです」と言います。「〇なんて全然気にしないさ。つぎの文ではわが子孫は〇に陥るとの明白な当てこすりをしています。この愚か者は「困った立場」で何を言おうとしているのか。彼が正直に言いたいのなら、どうして詳しく書かないのですか」と怒った政治屋さんと言います。「私は全文を読みましたが、〇の部分が最も危険だと思います。〇〇夫人とは誰のことですか」と私は言います。「分かるなら答えて欲しい」と彼の向かい側に座っている気の毒なホウィッグに怒った政治屋さんが言います。しかし、彼に返事をさせる間を置かず、「もし私が〇〇夫人なら、確実に「名誉毀損」で訴えますよ。一体どうなっているのです。みんな我慢しなくてはならないのですか」とこの政治屋さんは言います。彼はこの時までには新しいパイプに刻みを詰め終えていました。そして、私たちが彼の結論を待っていますと、それを口に当てて、煙を吐き出して私たちを焦らすのでした。彼は怒りと狼狽が募っていましたので、私たちは全員その煙で窒息するのではと思われるほどでした。しばらくして、私はスペクテイターには〇〇夫人の名前を書く際に行き過ぎがあったと思うと認めました。「でも、つぎの文では修正されています。あまり子音を並べずに空白にしているのです。つまり、その後で、かつて海洋の脅威であった艦隊は〇のために航行不能になると書いているのです」と私は言います。「その後に空白があるのは謙虚だと思えます。空白の意味は容易にお分かりですよ。彼はこの空白をあなたの言うそこから這い出す穴と考えているのだと私は思います。でも、彼の方向転換にはほとんど役立っていないと思います。偉大な将校たちが〇〇や〇〇といった口汚く扱われるのを見ると、誰も我慢できるものではありません」とわが敵対者は言います。「私はスペクテイターが一体誰のことを言っているのかどうしても想像できません」と私は言います。「そんなことはありません。すぐに分かりますよ」と彼は言います。そう言うと彼は傲慢に椅子にふんぞり返り、スペクテイターの熱心な賞賛者と思える彼の左手に座っている気だるい感じの老紳士に笑い掛けました。しかしながら、ホウィッグ黨員は私に好意を持ち始めていました。そして、私がパイプを手にするのを見ると、自分の刻みを差し出しました。しかし、私はそろそろ別の場所で友人に会わなくてはならなかったので、そのタバコは丁重にお断りしました。

このコーヒーハウスを後にするとき、並外れて賢明と言える多くの患者のことや愚鈍な頭では個人的な風刺や考えを理解できない今日のあら捜しが好きな時代にあって執筆することの困難さについて思いを馳せざるを得ませんでした<sup>2)</sup>。

風刺をかぎつける鋭い勘のある人は、この上なく天真爛漫な言葉にも裏切りや煽動をかぎつけ、悪徳とか愚行が非難されているとは思わず、知人の誰かが筆者から指摘されていることに気づきます。田舎の中身を伴わないある尊大な人物のことを思い出します。この人は『人間の義務』<sup>3)</sup>を読んでいるとき、この優れた著者が述べるそれぞれの罪のわきに、村の人たち数名の名前を書き留めていたのです。そのため、この人は最良の書物をその教区の郷土や教区委員や民生委員やその他すべての重要人物への中傷の書物に改造したのでした。余白に夥しいメモがついたこの書物が偶々それまで目を通したことのない人の手に渡りました。そこで、誰かが郷土および教区全体に敵対する書物を書いたのだという噂が立ちました。その時信徒たちと10分の1税を巡って論争していた牧師が著者ではないかと疑われました。すると、この善良な牧師は、風刺は近隣の2、3の村の人たちにも向けられていること、そして、書物はイングランド全体の罪人に向かって書かれていることを証明して教区民たちの思い違いを正したのです。

第569号 1714年7月19日(月曜日)

【アディソン】

王侯は、友情にふさわしい人物かどうかを見きわめたい  
 と思ったなら、彼にむりやり酒杯を重ねさせ、  
 思いや欠陥をすべてさらけださせたといわれる。(ホラティウス)<sup>1)</sup>

とかく自慢しがちになる悪癖ほど救いがたいものはありません。大酒飲みが幸いにもその仲間であることを不思議に思われるものでしょう。コリントスの飲みくらべに招かれたアナカルシスは、他の誰よりも早く酔っ払ったということで非常にひょうきんに褒美を要求しました。彼が言うには、競走のときにはゴールに一番に入った人に褒美が与えられるという訳です<sup>2)</sup>。しかしながら、この飲み助たちの場合は、一番大量に酒を飲み、他の人たちを寄せ付けない人に、その荣誉が授けられるのです。先日のこと、私はウェストサクソンのウィル・ファンネルと一緒にしました。彼はこの20年間に喉を通った酒の量を計算していました。彼の計算によると、オクトーバー・ビール約5600リットル、ポートワイン4トン、スモールビール約40.5リットル、リンゴ酒約3000リットル、グラス3杯のシャンパン、これに加えて、数限りないほんの一杯は言うまでもなく、ポンチを大杯400杯ということでした<sup>3)</sup>。この点に関しては、読者がウィル・ファンネルのように自惚れていて輝か

2) 第170号参照。

3) リチャード・アレストリー『人間の義務』(1658)

1) ホラティウス『詩の技法』434-6

2) プルタルコス「七賢人の饗宴」(『モラリア』156A)

しい手柄を自慢する何人かの野心に満ちた若者を連想することは間違いのないと思います。

現代の哲学者たちは総体的に地球上に水分が減退しているのだと言います。彼らはこの原因を主として自らの中に多くの液体を取り込み、二度と元に戻さない植物の成長のせいにしていきます。しかし、彼らは従順に滋養を主として液体に求めるこういった人間にその原因を求めるべきです。とりわけ、同類の動物に比べて、人間は分け前以上に酒を飲むことを考えて見るとそう言えます。

ところで、こういった種族がいかに自分を高く評価しようとも、神がお創りになった生き物の中で飲んでもくれほどひどい怪物はいません。実際、道理をわきまえた人から見れば酔っ払いほど見下げ果てた醜い存在はないからです。この悪癖に溺れていたわが同胞ボノサスはローマの分け前を主張し、大事な戦いで敗れて首つり自殺をしました<sup>4)</sup>。彼は非常に勇敢に振る舞っていたにも関わらず、この嘆かわしい状態になったとき、周りの兵士たちから自分たちの目の前にぶら下がっているのは人ではなく瓶なのだとあざけりの言葉を投げ掛けられたのでした。

この悪癖はこれに溺れた人の心身および人生に致命的な影響を及ぼします。

心に関しては、まず心にあるあらゆる欠陥をさらけ出します。節度のある人なら、理性の力によって、陥りがちな悪癖や愚行を抑制することが出来ます。しかし、ワインは心の中に潜んでいるあらゆる種子を芽吹かせ、顔を出させます。感情に激情を、感情を産み出す対象に力を提供するのです。若者が年老いた哲学者に妻の器量がよくないと不満を言ったら、その哲学者は「ワインにあまり水を入れないようにしなさい、そうすれば奥方はすぐにでも器量よしになる」と言います<sup>5)</sup>。ワインは愛情に無関心を、嫉妬に愛情を、狂気に嫉妬を植え付けます。しばしば、善良な人を愚か者に、痲癩持ちを刺客に変えます。憤慨に激しさを与え、自惚れを我慢できないものにし、心にあるどんな小さな欠点もこの上なく歪んだものにしてしまうのです。

この悪癖は人の隠れた欠陥を暴き、それもとても不愉快な形で暴き出すだけでなく、しばしば本来持っていない欠陥さえも生じさせます。「大酒飲みは欠陥を作り出すだけでなく暴露するのだ」<sup>6)</sup>というセネカの名言には真実以上のものがあります。日常的な体験から、私たちはその逆のことを教えられます。ワインは人を狼狽させ、心に素面のときには気づかない資質を注入します。あなたが話をしている相手は、ボトルを3本空けると、別人になります。私がこれまでに目にした最も素敵な格言はセネカの金言をベースにしています。「酔っ払いをあざける人はいない人を傷つけているのだ」<sup>7)</sup>がそれです。

3) 第72号参照。

4) Flavius Vopiscus, *Scriptores Historiae Augustae*, 14-15。ボノサスはスペイン生まれなので、厳密にはイギリス人ではない。彼は280年頃ケルンでプロブスに破れ首つり自殺をした (*Apophthegmata Graeca, Latina, Italica, Gallica, Hispanica*, 1519)。

5) レストレインジ (1616-1704) 『寓話』183

6) セネカ『道徳的書簡集』83.20

7) プブリリウス・シルス3

このように大酒飲みは、心に入り込んでいる悪徳をすべて排除し、同時に、心に入り込もうとする悪徳から守るのが本分である理性とは正反対な行動をします。実際にこの悪癖の支配下にある人物にこういった悪影響を与える以外に、素面の時の心にも悪い影響を与えます。なぜなら、これは知らぬ間に判断力を弱め、記憶力を減退させ、常習的な暴飲によって生み出される欠陥を常習的なものにしてしまうからです。

引き続きこの悪癖が人々の体と人生に与える悪影響について示すべきなのですが、それについては今後のために残して置きたいと思います。